

ブラックロック・ワールド債券ファンド  
(為替ヘッジなし／為替ヘッジあり)ブラックロック・ワールド債券ファンド  
(為替ヘッジなし)

第50期末(2024年3月18日)	
基準価額	14,393円
純資産総額	1,197百万円
騰落率	5.3%
分配金	15円

(注) 騰落率は収益分配金(税込み)を分配時に再投資したものとみなして計算したものです。

ブラックロック・ワールド債券ファンド  
(為替ヘッジあり)

第50期末(2024年3月18日)	
基準価額	9,009円
純資産総額	123百万円
騰落率	1.0%
分配金	0円

(注) 騰落率は収益分配金(税込み)を分配時に再投資したものとみなして計算したものです。

- 当ファンドは、投資信託約款において「運用報告書(全体版)」に記載すべき事項を、電磁的方法によりご提供する旨を定めております。右記弊社ホームページの「ファンド・ETF情報」、「投資信託」から当ファンドのファンド名を選択することにより、当ファンドの「運用報告書(全体版)」を開覧およびダウンロードすることができます。
- 「運用報告書(全体版)」は、受益者のご請求により交付されます。交付をご請求される方は、販売会社までお問い合わせください。

追加型投信／海外／債券  
交付運用報告書

第50期(2024年3月18日決算)

作成対象期間(2023年9月20日～2024年3月18日)

## 受益者の皆様へ

平素は格別のご愛顧を賜り厚く御礼申し上げます。さて、「ブラックロック・ワールド債券ファンド(為替ヘッジなし／為替ヘッジあり)」は、このたび、第50期の決算を行いました。当ファンドは、世界主要国の国債等(国債、政府機関債、国際機関債)を中心に公社債に投資し、信託財産の成長を図ることを目標として積極的な運用を行います。当期につきましても、これに沿った運用を行いました。ここに、今期の運用経過について、ご報告いたします。今後とも一層のお引立てを賜りますよう、お願い申し上げます。

## ブラックロック・ジャパン株式会社

〒100-8217 東京都千代田区丸の内一丁目8番3号  
丸の内トラストタワー本館

運用報告書に関するお問い合わせ先

電話番号: 03-6703-4300

(受付時間 営業日の9:00~17:00)

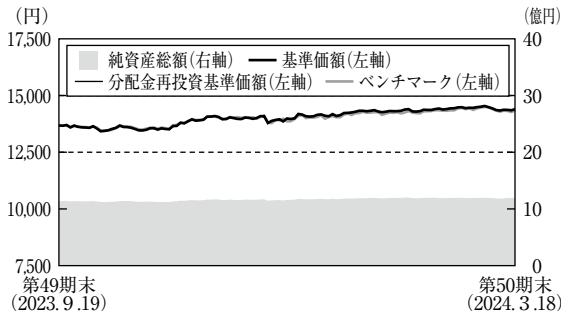
ホームページアドレス

www.blackrock.com/jp/

## <ブラックロック・ワールド債券ファンド(為替ヘッジなし)>

### ◇運用経過

■当期中の基準価額等の推移について(第50期:2023年9月20日～2024年3月18日)



第50期首: 13,678円  
 第50期末: 14,393円(既払分配金15円)  
 騰落率: 5.3%(分配金再投資ベース)

### ■基準価額の主な変動要因

当ファンドの基準価額の期中騰落率は+5.3%となりました。当期はグローバルで金利が低下し、また、為替市場では、円安が進行したことでワールド・ボンド・マザーファンド(為替ヘッジなし)が上昇したことが、プラス要因となりました。

### ■組入ファンドの当期間中の騰落率

組入ファンド	騰落率
ワールド・ボンド・マザーファンド(為替ヘッジなし)	5.8%

- \* 分配金再投資基準価額は、収益分配金(税込み)を分配時に再投資したものとみなして計算したもので、ファンド運用の実質的なパフォーマンスを示すものです。
- \* 分配金を再投資するかどうかについてはお客様がご利用のコースにより異なります。また、ファンドの購入価額により課税条件も異なります。従って、各個人のお客様の損益の状況を示すものではありません。
- \* ベンチマークは、F T S E 世界国債インデックス(円ベース)です。詳細につきましては後記をご覧ください。
- \* 分配金再投資基準価額およびベンチマークは、前期末の基準価額に合わせて指数化しています。

### ■1万口当りの費用明細

項目	第50期 (2023.9.20～2024.3.18)		項目の概要
	金額	比率	
	円	%	
(a) 信託報酬	65	0.462	信託報酬＝期中の平均基準価額×信託報酬率 期中の平均基準価額は14,033円です。
(投信会社)	(31)	(0.217)	投信会社分は、委託した資金の運用の対価
(販売会社)	(30)	(0.217)	販売会社分は、交付運用報告書等各种書類の送付、口座内での各ファンドの管理、購入後の情報提供等の対価
(受託銀行)	(4)	(0.027)	受託銀行分は、運用財産の管理、投信会社からの指図の実行の対価
(b) 売買委託手数料	1	0.005	売買委託手数料＝期中の売買委託手数料／期中の平均受益権口数 売買委託手数料は、有価証券等の売買の際、売買仲介人に支払う手数料
(先物・オプション)	(1)	(0.005)	
(c) 有価証券取引税	-	-	有価証券取引税＝期中の有価証券取引税／期中の平均受益権口数 有価証券取引税は、有価証券の取引の都度発生する取引に関する税金
(d) その他費用	3	0.024	その他費用＝期中のその他費用／期中の平均受益権口数
(保管費用)	(3)	(0.020)	保管費用は、海外における保管銀行等に支払う有価証券等の保管および資金の送金・資産の移転等に要する費用
(その他)	(1)	(0.005)	信託事務の処理等に要するその他諸費用
合計	69	0.491	

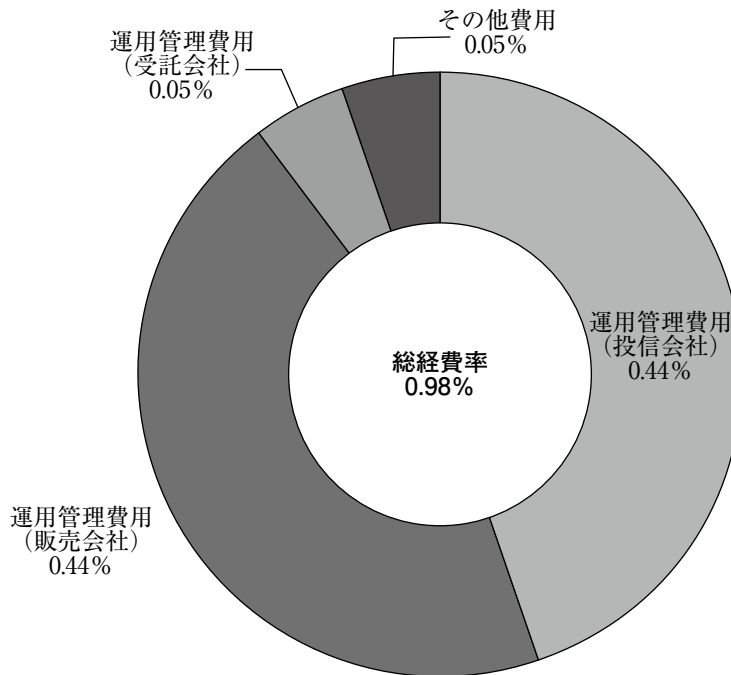
(注1) 期中の費用(消費税のかかるものは消費税を含む)は追加、解約によって受益権口数に変動があるため、項目の概要の簡便法により算出した結果です。なお、売買委託手数料、有価証券取引税およびその他費用は、このファンドが組入れているマザーファンドが支払った金額のうち、このファンドに対応するものを含みます。

(注2) 金額欄は各項目ごとに円未満は四捨五入してあります。

(注3) 比率欄は「1万口当りのそれぞれの費用金額」を期中の平均基準価額で除して100を乗じたものです。

(参考情報)

■総経費率



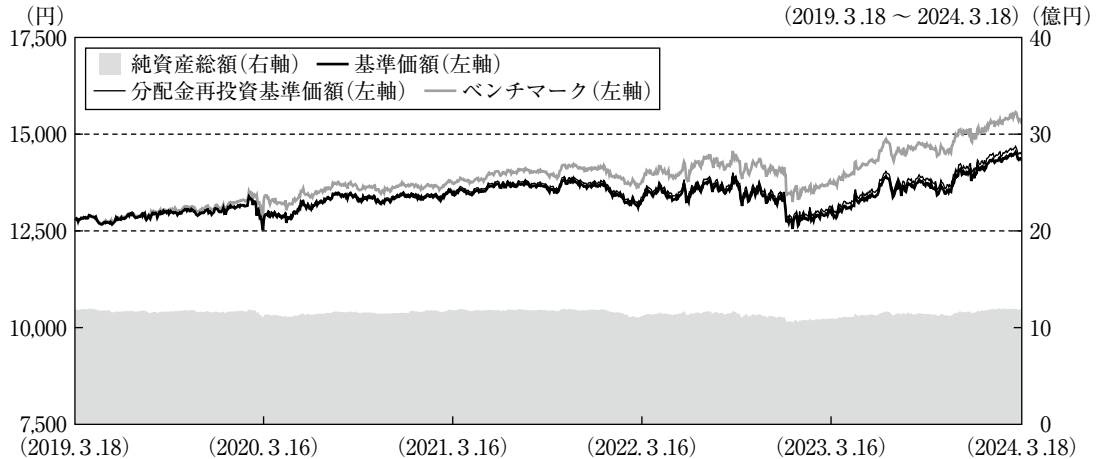
※当期中の運用・管理にかかった費用の総額を期中の平均受益権口数に期中の平均基準価額(1口当たり)を乗じた数で除した総経費率(年率)は0.98%です。

(注1) 1万口当たりの費用明細において用いた簡便法により算出したものです。

(注2) 各費用は、原則として、募集手数料、売買委託手数料及び有価証券取引税を含みません。

(注3) 各比率は、年率換算した値です。

■最近5年間の基準価額等の推移について



(注) 分配金再投資基準価額およびベンチマークは、2019年3月18日の基準価額をもとに指数化したものです。

\* 分配金再投資基準価額は、収益分配金(税込み)を分配時に再投資したものとみなして計算したもので、ファンド運用の実質的なパフォーマンスを示すものです。

\* 分配金を再投資するかどうかについてはお客様がご利用のコースにより異なります。また、ファンドの購入価額により課税条件も異なります。従って、各個人のお客様の損益の状況を示すものではありません。

	2019年3月18日 期初	2020年3月16日 決算日	2021年3月16日 決算日	2022年3月16日 決算日	2023年3月16日 決算日	2024年3月18日 決算日
基準価額(分配落) (円)	12,805	12,854	13,528	13,192	12,997	14,393
期間分配金合計(税込み) (円)	—	30	30	30	30	30
分配金再投資基準価額の騰落率(%)	—	0.6	5.5	△ 2.3	△ 1.3	11.0
F T S E世界国債インデックス (円ベース)騰落率	—	2.7	4.9	△ 0.6	0.1	12.1
純資産総額 (百万円)	1,184	1,125	1,186	1,111	1,092	1,197

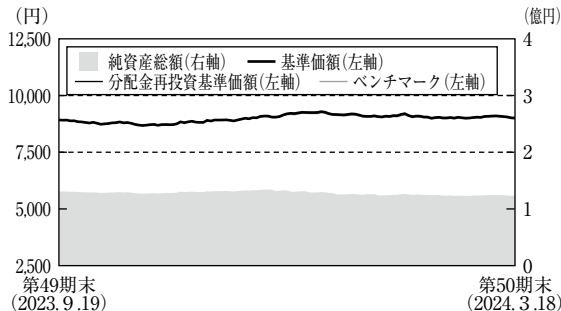
\* ベンチマークは、F T S E世界国債インデックス(円ベース)です。

\* F T S E世界国債インデックスとは、FTSE Fixed Income LLCにより運営され、世界主要国の国債の総合収益率を各市場の時価総額で加重平均した債券インデックスです。同指数はFTSE Fixed Income LLCの知的財産であり、指数に関するすべての権利はFTSE Fixed Income LLCが有しています。

## <ブラックロック・ワールド債券ファンド(為替ヘッジあり)>

### ◇運用経過

■当期中の基準価額等の推移について(第50期:2023年9月20日～2024年3月18日)



第50期首：8,924円  
 第50期末：9,009円(既払分配金0円)  
 騰落率：1.0%(分配金再投資ベース)

### ■基準価額の主な変動要因

当ファンドの基準価額の期中騰落率は+1.0%となりました。当期はグローバルで金利が低下したことから、ワールド・ボンド・マザーファンド(為替ヘッジあり)が上昇したことが、プラス要因となりました。

### ■組入ファンドの当期間中の騰落率

組入ファンド	騰落率
ワールド・ボンド・マザーファンド(為替ヘッジあり)	1.4%

- \* 分配金再投資基準価額は、収益分配金(税込み)を分配時に再投資したものとみなして計算したもので、ファンド運用の実質的なパフォーマンスを示すものではありません。
- \* 分配金を再投資するかどうかについてはお客様がご利用のコースにより異なります。また、ファンドの購入価額により課税条件も異なります。従って、各個人のお客様の損益の状況を示すものではありません。
- \* ベンチマークは、F T S E 世界国債インデックス(円ヘッジ円ベース)です。詳細につきましては後記をご覧ください。
- \* 分配金再投資基準価額およびベンチマークは、前期末の基準価額に合わせて指数化しています。

### ■1万口当りの費用明細

項目	第50期 (2023.9.20～2024.3.18)		項目の概要
	金額	比率	
	円	%	
(a) 信託報酬	42	0.462	信託報酬＝期中の平均基準価額×信託報酬率 期中の平均基準価額は8,987円です。
(投信会社)	(20)	(0.218)	投信会社分は、委託した資金の運用の対価
(販売会社)	(19)	(0.217)	販売会社分は、交付運用報告書等各种書類の送付、口座内での各ファンドの管理、購入後の情報提供等の対価
(受託銀行)	(2)	(0.027)	受託銀行分は、運用財産の管理、投信会社からの指図の実行の対価
(b) 売買委託手数料	0	0.005	売買委託手数料＝期中の売買委託手数料／期中の平均受益権口数 売買委託手数料は、有価証券等の売買の際、売買仲介人に支払う手数料
(先物・オプション)	(0)	(0.005)	
(c) 有価証券取引税	-	-	有価証券取引税＝期中の有価証券取引税／期中の平均受益権口数 有価証券取引税は、有価証券の取引の都度発生する取引に関する税金
(d) その他費用	2	0.019	その他費用＝期中のその他費用／期中の平均受益権口数
(保管費用)	(1)	(0.016)	保管費用は、海外における保管銀行等に支払う有価証券等の保管および資金の送金・資産の移転等に要する費用
(その他)	(0)	(0.003)	信託事務の処理等に要するその他諸費用
合計	44	0.486	

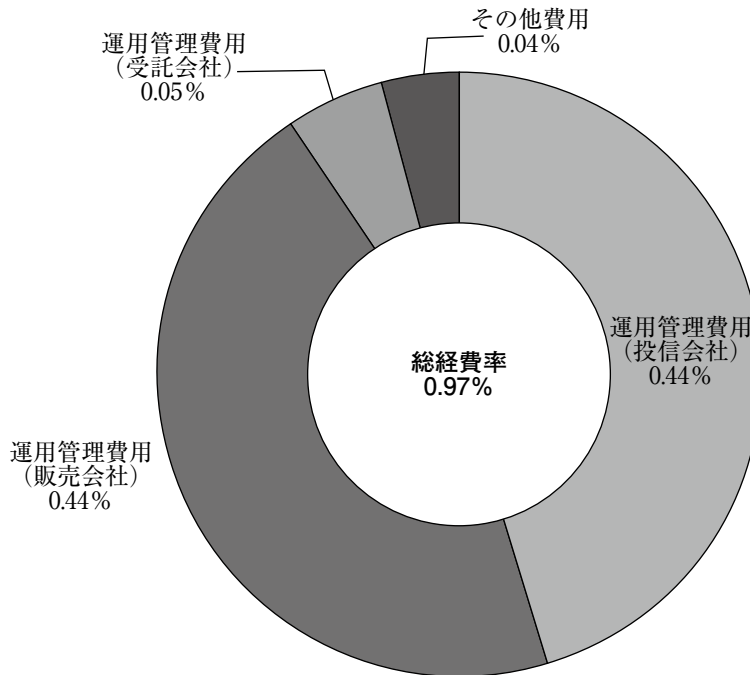
(注1) 期中の費用(消費税のかかるものは消費税を含む)は追加、解約によって受益権口数に変動があるため、項目の概要の簡便法により算出した結果です。なお、売買委託手数料、有価証券取引税およびその他費用は、このファンドが組入れているマザーファンドが支払った金額のうち、このファンドに対応するものを含みます。

(注2) 金額欄は各項目ごとに円未満は四捨五入してあります。

(注3) 比率欄は「1万口当りのそれぞれの費用金額」を期中の平均基準価額で除して100を乗じたものです。

(参考情報)

■総経費率



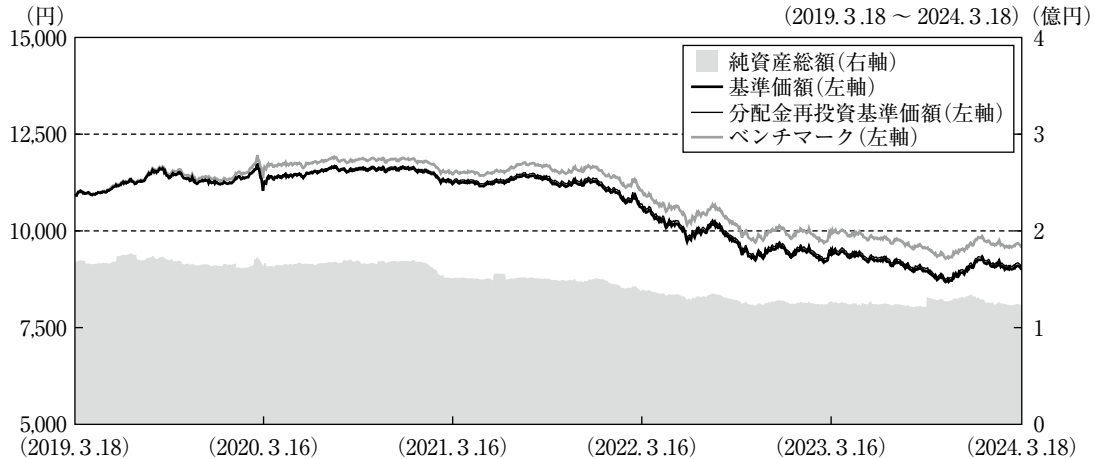
※当期中の運用・管理にかかった費用の総額を期中の平均受益権口数に期中の平均基準価額(1口当たり)を乗じた数で除した総経費率(年率)は0.97%です。

(注1) 1万口当たりの費用明細において用いた簡便法により算出したものです。

(注2) 各費用は、原則として、募集手数料、売買委託手数料及び有価証券取引税を含みません。

(注3) 各比率は、年率換算した値です。

■最近5年間の基準価額等の推移について



(注) 分配金再投資基準価額およびベンチマークは、2019年3月18日の基準価額をもとに指数化したものです。

\* 分配金再投資基準価額は、収益分配金(税込み)を分配時に再投資したものとみなして計算したもので、ファンド運用の実質的なパフォーマンスを示すものです。

\* 分配金を再投資するかどうかについてはお客様がご利用のコースにより異なります。また、ファンドの購入価額により課税条件も異なります。従って、各個人のお客様の損益の状況を示すものではありません。

	2019年3月18日 期初	2020年3月16日 決算日	2021年3月16日 決算日	2022年3月16日 決算日	2023年3月16日 決算日	2024年3月18日 決算日
基準価額(分配落) (円)	10,914	11,369	11,268	10,618	9,467	9,009
期間分配金合計(税込み) (円)	-	30	30	30	0	0
分配金再投資基準価額の騰落率(%)	-	4.4	△ 0.6	△ 5.5	△ 10.8	△ 4.8
F T S E世界国債インデックス (円ヘッジ円ベース)騰落率(%)	-	6.4	△ 0.8	△ 4.0	△ 9.6	△ 4.2
純資産総額 (百万円)	167	167	151	137	127	123

\* ベンチマークは、F T S E世界国債インデックス(円ヘッジ円ベース)です。

\* F T S E世界国債インデックスとは、FTSE Fixed Income LLCにより運営され、世界主要国の国債の総合収益率を各市場の時価総額で加重平均した債券インデックスです。同指数はFTSE Fixed Income LLCの知的財産であり、指数に関するすべての権利はFTSE Fixed Income LLCが有しています。

## 投資環境について

### <米国債券市場>

米国債券市場では、米国債の需給不安やインフレ率が予想を上回ったことから、金利が上昇する局面も見られたものの、その後発表された米国債発行計画が市場予想を下回ったことで需給不安が後退したこと、インフレの鈍化および労働市場の緩和や、12月の米連邦公開市場委員会(FOMC)における金利・経済見通しやパウエル米連邦準備制度理事会(FRB)議長の発言がハト派であったことから金利は低下しました。2024年に入り、発表された経済指標が堅調であったことやタカ派的なFRB高官の発言等を受け米国金利は上昇したものの、前期末比若干低下で当期を終えました。

9月、FOMCでは市場予想通り政策金利据え置きが発表されましたが、Dots(政策金利見通し)や経済見通しがタカ派に傾いていたことで「より高く長く」政策金利が据え置かれるという観測が広がり、長期主導で金利上昇となりました。10月、中旬以降は市場予想を上回った米消費者物価指数(CPI)の発表をきっかけに長期金利中心に上昇基調となり、経済指標の堅調さや米国債増発による需給懸念も重石となった中、下旬にかけて10年金利は5%を試す展開となりました。11月、米国債発行計画で示された発行額の増加幅が市場予想よりやや少ない水準となり、増発への懸念が後退したこと、発表された経済指標がインフレの鈍化や労働市場の緩和を示唆したことから金利が低下しました。12月、FOMCにおいてハト派な金利・経済見通しが示されたことから利下げ期待が高まり、金利は低下基調が継続しました。1月、月初は強い経済指標を背景に金利は上昇基調となったものの、月末にかけては、四半期定期入札(クォーターリファイディング)を受けた需給懸念の後退や、米地銀に対する懸念の再燃を受けた質への逃避の動きから金利は低下基調となり、米金利は短期が低下、長期が上昇しました。2月、FRB高官のタカ派色のある発言や、CPIが市場予想を上回ったことなどから米国金利は上昇基調となりました。その後も、利下げ織り込みの剥落が継続し短期金利中心に上昇する展開となり、月を通じて見ればカーブはベアフラット化しました。3月に入ってから、米国サブプライマネジメント協会(ISM)発表の景況感指数が市場予想を下回ったことから金利が低下す

る局面も見られたものの、市場予想を上回る米CPIや生産者物価指数(PPI)を背景に金利が上昇し、10年債利回りは4.3%台前半で当期を終えました。

### <欧州債券市場>

欧州債券市場では、2023年の年末にかけては10月の欧州中央銀行(ECB)会合後の記者会見でラガルド総裁が欧州の成長率下振れの可能性について言及したこと、インフレ指標等の経済指標が予想を下回ったこと等を背景に市場が利下げを織り込み金利が低下しました。その後、2024年に入り堅調な経済指標が見られたことやECB理事会メンバーから利下げ織り込みを牽制する発言が相次いだことから金利が上昇に転じたものの、前期末比低下で当期を終えました。

9月、月央に開催されたECB会合で市場予想通り25bpsの利上げが実施されたものの、声明文のタカ派トーンが後退したことから金利が低下する局面がみられたものの、ロシアやサウジアラビアによる減産や輸出削減を背景とするエネルギー価格の上昇等を受け、金利が上昇しました。10月、米国金利に追随する形で金利が上昇する局面も見られたものの、中東情勢の緊迫化を受けたりスクオフや月末に開催されたECB会合で市場予想通り利上げが見送られ、ラガルド総裁が記者会見で成長率の下振れの可能性等に言及したことから金利が低下しました。11月、欧州地域のインフレ指標等の経済指標が予想を下回ったことや米国金利低下に追随する形で欧州金利は低下しました。12月、欧州地域の12月分購買担当者景気指数(PMI)等の経済指標が予想を下回ったこと、また、タカ派であるシュナーベル理事によるハト派発言を受け欧州金利は低下しました。1月、ドイツやフランスの12月分PMI確報値が速報を大きく上振れたことや活況な起債市場、また、相次ぐECB理事会メンバーから利下げ織り込みを牽制する発言を受け欧州金利は上昇しました。2月、相次ぐECB理事会メンバーから利下げ織り込みを牽制する発言が見られたことに加え、堅調な米雇用統計等を受けた米金利上昇に追随し欧州金利は上昇しました。3月に入り、ECB会合で政策金利は据え置かれたものの、スタッフ見通しが引き下げられたこと等を背景に金利が低下しました。ドイツ10年債利回りは2.4%台半ばで当期を終えました。



## <日本債券市場>

日本債券市場では、米国債市場の金利低下を背景に国内債券市場も利回り低下圧力を受けたものの、日銀の早期マイナス金利政策終了についての観測が高まったことや日銀政策決定会合で物価目標達成の確度が高まりつつあるとの見解が示されたこと等を背景に国内債券市場は利回り上昇圧力を受けました。

9月、米欧債券市場の軟調が続いたこと、また、日銀の早期マイナス金利政策終了についての観測が高まったこと等を背景に、国内債券市場は利回り上昇圧力を受けました。10月、月末に開催された日銀金融政策決定会合において、長短金利を操作するイールドカーブコントロール(YCC)における長期金利の上限である1%を超える取引を容認する柔軟化措置が決定されたこと等を背景に金利が上昇しました。11月、米国債市場において、弱めの雇用、物価指標や、FOMC主要メンバーのインフレ鎮静化に伴う利下げの可能性を示唆する発言等を背景に利回りが大幅低下となったこと等を背景に、国内債券市場も利回り低下圧力を受けました。12月、日銀は決定会合で政策を維持した中、米国債券市場では2024年における大幅な利下げ見通しがFOMCにおいて示されたこと等を背景に、米国債市場が前月に続き利回り低下基調となったことを主因に国内債券市場も利回り低下圧力を受けました。1月、前半は能登半島地震の影響もあり国内債券市場は小幅の利回り低下となりましたが、月後半には、日銀政策決定会合で物価目標達成の確度が高まりつつあるとの見解が示されたこと等を背景に国内債券市場は利回り上昇圧力を受けました。2月、日銀のマイナス金利解除への警戒感から、中短期セクターが利回り上昇圧力を受けました。3月に入り、春闘において大幅な賃上げを行う姿勢が示されたことや日銀の政策正常化観測が強まったことから利回り上昇圧力がかかりました。10年債利回りは0.7%台後半で当期を終えました。

## ポートフォリオについて

### <ブラックロック・ワールド債券ファンド(為替ヘッジなし)>

当期、「ワールド・ボンド・マザーファンド(為替ヘッジなし)」を高位に組み入れた運用を行いました。

### <ブラックロック・ワールド債券ファンド(為替ヘッジあり)>

当期、「ワールド・ボンド・マザーファンド(為替ヘッジあり)」を高位に組み入れた運用を行いました。

### <ワールド・ボンド・マザーファンド(為替ヘッジなし/為替ヘッジあり)>

米国では、バリュエーションや市場における一連のリスク要因を鑑みた取引を行うなかで、デュレーションを機動的に調整しました。当期初においては、機動的に調整しつつ小幅オーバーウェイトとしていたものの、その後は、発表された経済指標がインフレの鈍化や労働市場の緩和を示唆し利下げ期待が徐々に高まる中、デュレーションのオーバーウェイトを徐々に拡大しました。2024年に入り、米地銀に対する懸念の再燃や一部経済指標が堅調であることを背景に金利が再び上昇する中デュレーションのオーバーウェイト幅を削減するなど、機動的に調整を行いました。カーブ戦略については、期を通して機動的に調整しつつスティープナーを維持しました。利上げが終盤であることに加え、利下げへの期待が高まっていることから、高い利回りに加え、今後利下げに転じた際に価格リターンも得られることから中期ゾーンを中心に保有を行いました。

欧州のデュレーションは、機動的に調整しつつ、当期末時点で概ねオーバーウェイトとしました。ドイツ金利については、金利の上下に合わせた機動的に調整を行い、期末にかけてはECBによる利下げを意識し、足元にかけてオーバーウェイトとしました。カーブ戦略については、機動的な対応を行いました。

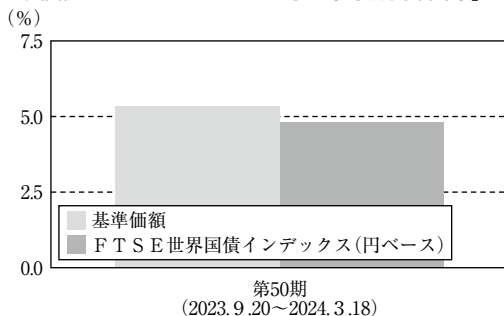
社債に関しては、健全なファンダメンタルズや良好な需給環境がポジティブ材料になると見込み、米国投資適格社債への配分を維持しました。米国投資適格社債は、FRBやECB等の中央銀行の政策金利が十分に引き締めの水準まで引き上げられたとの認識が広がり、利下げ期待が高まったことや堅調な需給環境を背景に保有を増やしました。期末にかけては、米国投資適格社債のスプレッドが足元にかけて大きく縮小したことから、保有を一部削減するなど機動的な対応を行いました。

### ベンチマークとの差異について

<ブラックロック・ワールド債券ファンド(為替ヘッジなし)>

当期の基準価額の期中騰落率は+5.3%となり、ベンチマークであるFTSE世界国債インデックス(円ベース)の+4.8%を上回りました。

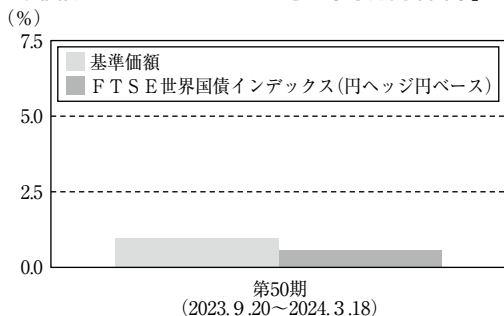
#### 【基準価額とベンチマークの対比(期別騰落率)】



<ブラックロック・ワールド債券ファンド(為替ヘッジあり)>

当期の基準価額の期中騰落率は+1.0%となり、ベンチマークであるFTSE世界国債インデックス(円ヘッジ円ベース)の+0.6%を上回りました。

#### 【基準価額とベンチマークの対比(期別騰落率)】



### (主なプラス要因)

- ・米欧投資適格社債や米国証券化商品の保有
- ・米欧デュレーションのオーバーウェイトを中心とする機動的なポジション

### (主なマイナス要因)

- ・米欧利回りカーブのポジショニング

### 分配金について

<ブラックロック・ワールド債券ファンド(為替ヘッジなし)>

収益分配金は基準価額水準、市場動向等を勘案して1万口あたり15円とさせていただきます。留保益の運用につきましては、運用の基本方針に基づき運用を行います。

#### ■分配原資の内訳(1万口当り)

項目	当期 2023年9月20日 ~2024年3月18日
当期分配金(税込み)	15円
対基準価額比率	0.10%
当期の収益	15円
当期の収益以外	-
翌期繰越分配対象額	6,249

(注1) 「当期の収益」は「経費控除後の配当等収益」および「経費控除後の有価証券売買等損益」から分配に充当した金額です。また、「当期の収益以外」は「収益調整金」および「分配準備積立金」から分配に充当した金額です。

(注2) 円未満は切り捨てており、当期の収益と当期の収益以外の合計が当期分配金(税込み)に合致しない場合があります。

(注3) 当期分配金の対基準価額比率は当期分配金(税込み)の期末基準価額(分配金込み)に対する比率で、ファンドの収益率とは異なります。

<ブラックロック・ワールド債券ファンド(為替ヘッジあり)>

収益分配金は基準価額水準、市場動向等を勘案して、見送りとさせていただきます。留保益の運用につきましては、運用の基本方針に基づき運用を行います。

## ■分配原資の内訳(1万口当り)

項目	当期
	2023年9月20日 ～2024年3月18日
当期分配金(税込み)	-円
対基準価額比率	-%
当期の収益	-円
当期の収益以外	-
翌期繰越分配対象額	2,381

- (注1) 「当期の収益」は「経費控除後の配当等収益」および「経費控除後の有価証券売買等損益」から分配に充当した金額です。また、「当期の収益以外」は「収益調整金」および「分配準備積立金」から分配に充当した金額です。
- (注2) 円未満は切り捨てており、当期の収益と当期の収益以外の合計が当期分配金(税込み)に合致しない場合があります。
- (注3) 当期分配金の対基準価額比率は当期分配金(税込み)の期末基準価額(分配金込み)に対する比率で、ファンドの収益率とは異なります。

## 今後の運用方針について

### <ブラックロック・ワールド債券ファンド(為替ヘッジなし)>

引き続き、「ワールド・ボンド・マザーファンド(為替ヘッジなし)」を高位に組み入れる運用を行う方針です。

### <ブラックロック・ワールド債券ファンド(為替ヘッジあり)>

引き続き、「ワールド・ボンド・マザーファンド(為替ヘッジあり)」を高位に組み入れる運用を行う方針です。

### <ワールド・ボンド・マザーファンド(為替ヘッジなし/為替ヘッジあり)>

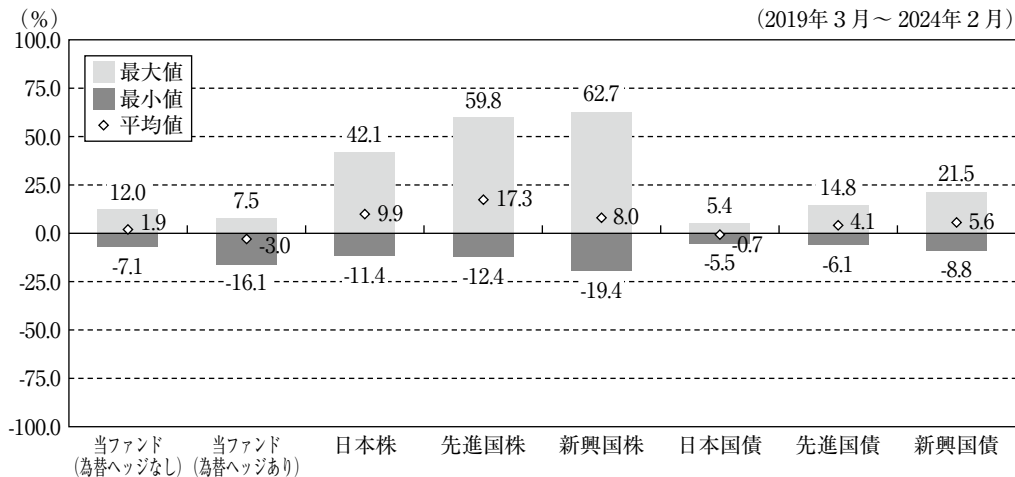
市場は、年後半の利下げや景気のソフトランディングに対する見方を強めています。しかし、足元の米国のインフレ率が予想を上回る伸びを示すなど、先行きが不透明な状況が続いています。足元の市場環境においては、引き続き高クオリティの短期債に加え、利回り低下による利益を得るためイールドカーブの中期ゾーンのデュレーションリスクやクレジットリスクも選好する方針です。また、底堅い米国経済やインフレ率の高止まりの可能性等を背景に早期利下げ観測が後退しているものの、インフレ率の低下基調や経済成長率の減速を背景に、追加利上げのリスクは低下していると考えていることから、投資機会を見極め、米国、欧州および英国のデュレーションの長期化を検討していく方針です。

◇当ファンドの概要

商品分類	追加型投信／海外／債券	
信託期間	無期限です。(設定日:1998年12月1日)	
運用方針	世界主要国の国債等を中心に公社債に投資し、信託財産の成長を目標に積極的な運用を行います。	
主要投資対象	子投資信託	【ブラックロック・ワールド債券ファンド(為替ヘッジなし)】 ワールド・ボンド・マザーファンド(為替ヘッジなし)受益証券を主要投資対象とします。 【ブラックロック・ワールド債券ファンド(為替ヘッジあり)】 ワールド・ボンド・マザーファンド(為替ヘッジあり)受益証券を主要投資対象とします。
	親投資信託	【ワールド・ボンド・マザーファンド(為替ヘッジなし/為替ヘッジあり)】 世界主要国の国債等を中心に公社債に投資します。
運用方法	<p>【ブラックロック・ワールド債券ファンド(為替ヘッジなし)】</p> <p>①マザーファンド受益証券への投資を通じて、世界主要国の国債等を中心に公社債に投資し、信託財産の成長を図ることを目標として積極的な運用を行います。</p> <p>②F T S E世界国債インデックス(円ベース)をベンチマークとし、ベンチマークを上回る投資成果を目指します。</p> <p>③運用の指図に関する権限をブラックロック・グループの運用会社へ委託します。</p> <p>④原則として為替ヘッジを行いません。</p> <p>【ブラックロック・ワールド債券ファンド(為替ヘッジあり)】</p> <p>①マザーファンド受益証券への投資を通じて、世界主要国の国債等を中心に公社債に投資し、信託財産の成長を図ることを目標として積極的な運用を行います。</p> <p>②F T S E世界国債インデックス(円ヘッジ円ベース)をベンチマークとし、ベンチマークを上回る投資成果を目指します。</p> <p>③運用の指図に関する権限をブラックロック・グループの運用会社へ委託します。</p> <p>④原則として為替ヘッジにより為替変動リスクの低減を図ることを基本とします。</p>	
分配方針	<p>年2回の毎決算時(3月16日、9月16日。休業日の場合は翌営業日)に、原則として以下の方針に基づき、分配を行います。</p> <p>■分配対象額の範囲は、繰越分を含めた利子・配当収入と売買損益(評価損益も含みます。)等の全額とすることができます。</p> <p>■分配金額は、委託会社が基準価額水準、市況動向等を勘案して決定します。</p> <p>■留保益の運用については特に制限を設けず、委託会社の判断に基づき、元本部分と同一の運用を行います。</p> <p>※基準価額水準、市況動向等によっては分配を行わないことがあります。将来の分配金の支払いおよびその金額について保証するものではありません。</p>	

(参考情報)

◇代表的な資産クラスとの騰落率の比較



(注) すべての資産クラスが当ファンドの投資対象とは限りません。

\*上記は、2019年3月～2024年2月の5年間の各月末における直近1年間の騰落率の平均・最大・最小を、当ファンドおよび他の代表的な資産クラスについて表示したものです。

\*上記の騰落率は直近月末から60ヵ月遡った算出結果であり、決算日に対応した数値とは異なります。

\*当ファンドは分配金再投資基準価額の騰落率です。

(注) 海外の指数は、為替ヘッジなしによる投資を想定して、円換算しています。

\*各資産クラスの指数

日本株・・・東証株価指数(TOPIX)(配当込み)

先進国株・・・MSCIコクサイ指数(配当込み、円ベース)

新興国株・・・MSCIエマージング・マーケット・インデックス(配当込み、円ベース)

日本国債・・・NOMURA-BPI国債

先進国債・・・FTSE世界国債インデックス(除く日本、円ベース)

新興国債・・・J.P.モルガン・ガバメント・ボンド・インデックス-エマージング・マーケット・グローバル・ディバーシファイド(円ベース)

<各指数について>

東証株価指数(TOPIX)(配当込み)は、日本の株式市場を広範に網羅するとともに、投資対象としての機能性を有する我が国を代表する指数です。東証株価指数(TOPIX)(配当込み)の指数値および東証株価指数(TOPIX)(配当込み)に係る商標又は商標は、株式会社JPX総研又は株式会社JPX総研の関連会社(以下「JPX」という。)の知的財産であり、指数の算出、指数値の公表、利用など東証株価指数(TOPIX)(配当込み)に関するすべての権利・ノウハウおよび東証株価指数(TOPIX)(配当込み)に係る商標又は商標に関するすべての権利はJPXが有します。JPXは、東証株価指数(TOPIX)(配当込み)の指数値の算出又は公表の誤謬、遅延又は中断に対し、責任を負いません。MSCIコクサイ指数(配当込み、円ベース)およびMSCIエマージング・マーケット・インデックス(配当込み、円ベース)は、MSCI Inc.が開発、計算した株価指数です。MSCIコクサイ指数(配当込み、円ベース)は日本を除く世界の主要先進国の株式を、また、MSCIエマージング・マーケット・インデックス(配当込み、円ベース)は新興国の株式を対象として算出した指数です。同指数に関する著作権、知的財産その他の一切の権利は、MSCI Inc.に帰属します。また、MSCI Inc.は同指数の内容を変更する権利及び公表を停止する権利を有しています。

NOMURA-BPI国債は、野村フィデューシャリー・リサーチ&コンサルティング株式会社が公表している指数で、日本国債の市場全体の動向を表す投資収益指数です。同指数に関する知的財産権は野村フィデューシャリー・リサーチ&コンサルティング株式会社に帰属します。なお、野村フィデューシャリー・リサーチ&コンサルティング株式会社は、NOMURA-BPI国債の正確性、完全性、信頼性、有用性を保証するものではなく、NOMURA-BPI国債を用いて行われるブラックロック・ジャパン株式会社の事業活動・サービスに関し一切責任を負いません。

FTSE世界国債インデックス(除く日本、円ベース)は、FTSE Fixed Income LLCにより運営され、日本を除く世界主要国の国債の総合収益率を各市場の時価総額で加重平均した債券インデックスです。同指数はFTSE Fixed Income LLCの知的財産であり、指数に関するすべての権利はFTSE Fixed Income LLCが有しています。

J.P.モルガン・ガバメント・ボンド・インデックス-エマージング・マーケット・グローバル・ディバーシファイド(円ベース)は、J.P.モルガン・セキュリティーズ・エルエルシーが発表しており、新興国の現地通貨建ての国債を対象として算出した指数です。同指数に関する著作権はJ.P.モルガン・セキュリティーズ・エルエルシーに帰属しています。

<ブラックロック・ワールド債券ファンド(為替ヘッジなし)>

◇ファンドデータ

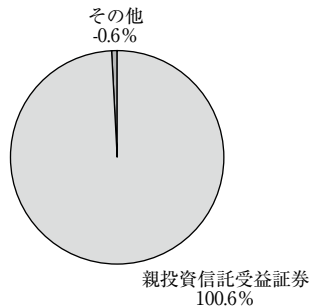
■当ファンドの組入資産の内容

○組入ファンド等

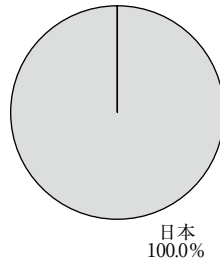
	比率
ワールド・ボンド・マザーファンド(為替ヘッジなし)	100.6%
その他	-0.6

(注) 比率は第50期末における純資産総額に対する評価額の割合です。

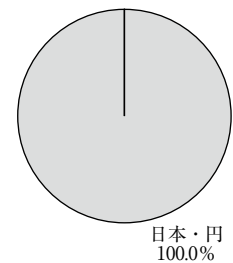
○資産別配分



○国別配分



○通貨別配分



(注) 比率は第50期末における純資産総額に対する評価額の割合です。

■純資産等

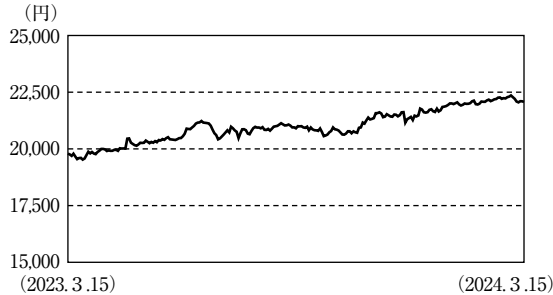
項目	当期末
	2024年3月18日
純資産総額	1,197,721,468円
受益権総口数	832,160,540口
1万口当り基準価額	14,393円

\* 当期中における追加設定元本額は43,085,729円、同解約元本額は43,239,290円です。

■組入上位ファンドの概要

◆ワールド・ボンド・マザーファンド(為替ヘッジなし)

○基準価額の推移



○上位10銘柄

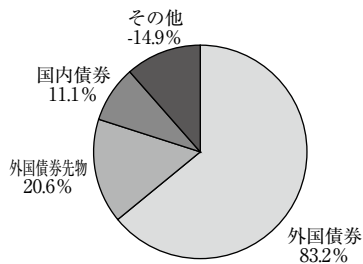
銘柄名	通貨	比率
UNITED STATES TREASURY BILL 2024/04/04	米・ドル	3.3%
MEXICAN BONOS 7.5% 2033/05/26	メキシコ・ペソ	2.9
UNITED STATES TREASURY NOTE/BOND 2.875% 2032/05/15	米・ドル	2.5
BUNDESREPUBLIK DEUTSCHLAND BUNDESANLEIHE 1.7% 2032/08/15	ユーロ	2.3
UNITED STATES TREASURY NOTE/BOND 3.375% 2033/05/15	米・ドル	2.1
FRENCH REPUBLIC GOVERNMENT BOND OAT 2.75% 2029/02/25	ユーロ	1.9
MOODY'S CORP 1.75% 2027/03/09	ユーロ	1.7
ITALY BUONI POLIENNALI DEL TESORO 1.25% 2026/12/01	ユーロ	1.5
BUNDESREPUBLIK DEUTSCHLAND BUNDESANLEIHE 0% 2029/08/15	ユーロ	1.5
54 30年国債	日本・円	1.4
組入銘柄数	276銘柄	

○1万口当りの費用明細

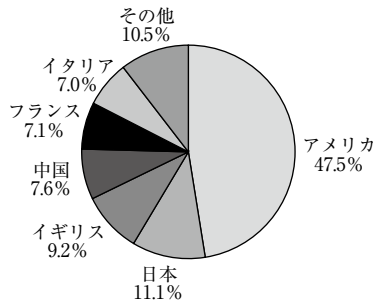
(2023.3.16~2024.3.15)

項目	当期
(a) 売買委託手数料 (先物・オプション)	2円 (2)
(b) 有価証券取引税	-
(c) その他費用 (保管費用) (その他)	18 (17) (1)
合計	20

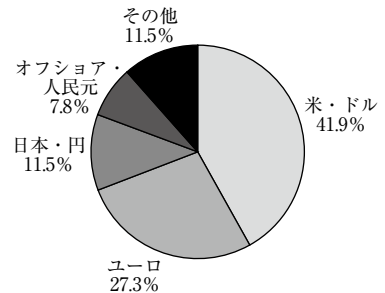
○資産別配分



○国別配分



○通貨別配分



(注1) 基準価額の推移、1万口当りの費用の明細は組入ファンドの直近の計算期間のものです。

(注2) 1万口当りの費用明細は各項目ごとに円未満は四捨五入してあります。なお、費用項目については1ページ(1万口当りの費用明細の項目の概要)をご参照ください。

(注3) 組入上位銘柄、資産別・国別・通貨別配分のデータは組入ファンドの直近の決算日現在のものです。

(注4) 通貨別配分のデータは実質為替組入比率を記載しております。

(注5) 比率は純資産総額に対する評価額の割合です。

\*組入全銘柄に関する詳細な情報等については、運用報告書(全体版)でご覧いただけます。

<ブラックロック・ワールド債券ファンド(為替ヘッジあり)>

◇ファンドデータ

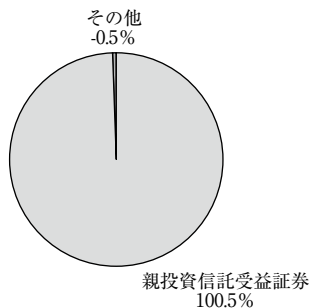
■当ファンドの組入資産の内容

○組入ファンド等

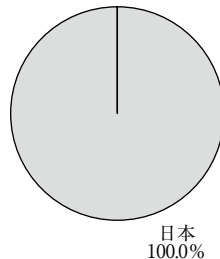
	比率
ワールド・ボンド・マザーファンド(為替ヘッジあり)	100.5%
その他	-0.5

(注) 比率は第50期末における純資産総額に対する評価額の割合です。

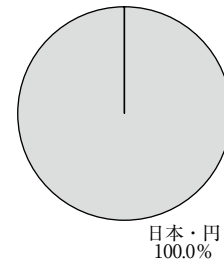
○資産別配分



○国別配分



○通貨別配分



(注) 比率は第50期末における純資産総額に対する評価額の割合です。

■純資産等

項目	当期末
	2024年3月18日
純資産総額	123,299,561円
受益権総口数	136,856,519口
1万口当り基準価額	9,009円

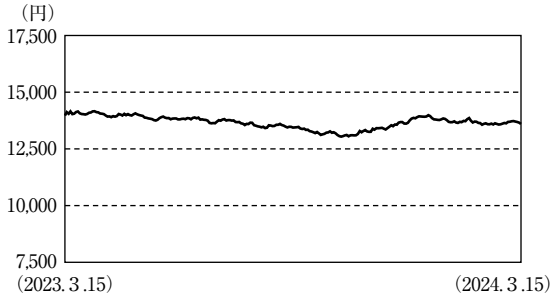
\* 当期中における追加設定元本額は8,414,284円、同解約元本額は18,157,623円です。



■組入上位ファンドの概要

◆ワールド・ボンド・マザーファンド(為替ヘッジあり)

○基準価額の推移



○上位10銘柄

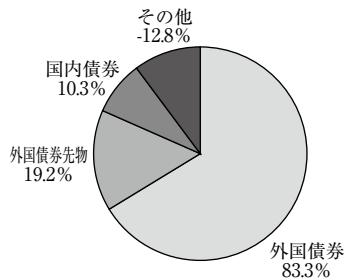
銘柄名	通貨	比率
UNITED STATES TREASURY NOTE/BOND 4.25% 2025/12/31	米・ドル	5.4%
UNITED STATES TREASURY NOTE/BOND 0.5% 2027/08/31	米・ドル	2.9
MEXICAN BONOS 7.5% 2033/05/26	メキシコ・ペソ	2.5
FRENCH REPUBLIC GOVERNMENT BOND OAT 0% 2025/02/25	ユーロ	1.8
ITALY BUONI POLIENNALI DEL TESORO 3% 2029/08/01	ユーロ	1.6
UNITED STATES TREASURY BILL 2024/04/04	米・ドル	1.4
CHINA GOVERNMENT BOND 2.68% 2030/05/21	オフショア・人民元	1.1
ITALY BUONI POLIENNALI DEL TESORO 1.6% 2026/06/01	ユーロ	1.1
353 10年国債	日本・円	1.1
UNITED KINGDOM GILT 3.25% 2044/01/22	英国・ポンド	1.1
組入銘柄数	313銘柄	

○1万口当りの費用明細

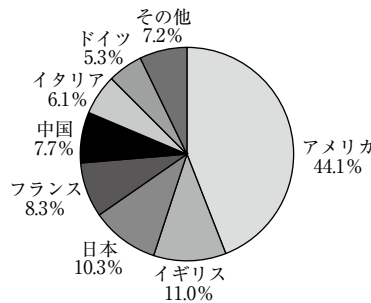
(2023.3.16~2024.3.15)

項目	当期
(a) 売買委託手数料 (先物・オプション)	1円 (1)
(b) 有価証券取引税	-
(c) その他費用 (保管費用)	10 (9)
(その他)	(0)
合計	11

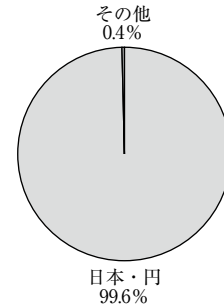
○資産別配分



○国別配分



○通貨別配分



(注1) 基準価額の推移、1万口当りの費用の明細は組入ファンドの直近の計算期間のものです。  
 (注2) 1万口当りの費用明細は各項目ごとに円未満は四捨五入してあります。なお、費用項目については1ページ(1万口当りの費用明細の項目の概要)をご参照ください。  
 (注3) 組入上位銘柄、資産別・国別・通貨別配分のデータは組入ファンドの直近の決算日現在のものです。  
 (注4) 通貨別配分のデータは実質為替組入比率を記載しております。  
 (注5) 比率は純資産総額に対する評価額の割合です。  
 \*組入全銘柄に関する詳細な情報等については、運用報告書(全体版)でご覧いただけます。